

～市民がつくる～

三木市男女共同参画センター情報誌

こらぼよ

こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
～しようよ の組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第53号 2020・夏



- ◆ 予期せぬ妊娠、コロナで急増!?
- ◆ 10代の妊娠相談
- ◆ 新型コロナウイルス前後の生活の変化から
「激変!働き方、家事、育児」
- ◆ シリーズ「結婚ってお嫁入りなの?」
- ◆ なんて呼ぶ?男女の呼び方、夫婦の呼び方から
男女平等について考える
- ◆ 今後の男女共同参画センター主催の講座

令和2年度女性のための働き方セミナー

「働き方別徹底解説!老後のためのマネープラン」を開催します!

日時: 9月26日(土) 10時から11時30分

会場: 教育センター セミナー室2

講師: 大津恵美子さん

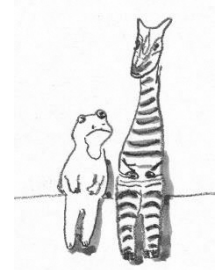
(社会保険労務士・ファイナンシャルプランナー)

女性の働き方に応じて老後のために準備しておきたい資金も様々です。
老後の収入を予測しながらマネープランを立ててみませんか。



予期せぬ妊娠、コロナで急増！？

～10代の妊娠相談～



5月末、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための自粛生活中に、「10代の妊娠、休校で相談急増」「一人で悩まないで」という衝撃的な新聞記事を目にしました。

4月末、高校の臨時休校延長が発表されたとき、私の脳裏に「高校生の妊娠が増えるのでは？」という心配がよぎりました。すでに混乱している医療現場、この状況で予期せず妊娠した場合ケアしてもらえるのか、中絶可能期間を超え妊娠が継続してしまわないかなど、心配していたことが的中しました。

「休校中、親がいない間に性行為をした」「バイト収入がなくなり、デートなどの対価に男性が金銭を渡す『パパ活』をした」など。性交が妊娠の可能性を伴う行為であることを知らない場合や、避妊について誤解している場合がある、と記事にはありました。

この10代の予期せぬ妊娠については、性についての正しい知識を学ぶ機会がないことに大きな原因があると思います。現状では、受精卵からスタートして胎児が成長すること、思春期の男女の第二性徴については小学校で学習しますが、その間にある「性交」やそれに関わる「避妊」「人工妊娠中絶」に

ついては中学校までの学習範囲からすっぱり抜けています。本来ならば家庭での性教育も重要なのですが、残念ながら多くの大人もきちんとした性教育を受けたことがなく、子どもに自信をもって教えられだけの知識や技術がないのが現状なのではないでしょうか。

相談者の中には中学生もいます。10代の心と体を守るために、教育現場では積極的な正しい性教育の普及をめざしてほしいです。中高生はスマホ等でも情報収集できますが、情報の正誤を判断する力は未熟でしょう。不安があるなら一人で抱えず相談窓口(※1)などに勇気をもって相談してもらいたいと思います。

中高生には、自分を大切にすること、同じように他者も大切にすることも学んでほしいです。そして、性的な関心や感情の高ぶりがあっても、自分にも相手にも「性の自己決定権(※2)がある」と理解し、未来を見通し、正しい知識をもとに行動できる「カッコイイ大人」になってもらいたいと願っています。

(編集委員:A)



※1 思いがけない妊娠SOS(兵庫県)

電話 078-351-3400 (月～金 10:00～16:00)

メール相談 QRコードから「思いがけない妊娠SOS」サイトへ



※2 性の自己決定権とは、性に関して自身の意思をもって行動できる権利のこと。性交にかかわることだけではなく、誰を好きになるか(異性、同性など)、どういう自分であるか(性自認との一致、不一致)、いつどのように子どもをもつかもたないかなど、性差と生き方に関する選択の自由についての権利。

新型コロナウイルス前後の 生活の変化から

～激変！働き方、家事、育児～

6月に入り、新型コロナウイルスと共生することを前提とした新しい生活様式(ソーシャルディスタンスを保つ等)がスタートしました。ウィズコロナの中、以前の日常とは違っている事を実感し、見えないウイルスに対する不安を抱えながらも、通常の生活を取り戻しつつあります。

緊急事態宣言中は、外出自粛のための在宅ワーク、時差勤務、休校、オンライン授業等家族で過ごす時間が増え、家事育児への関わり方や考え方を大きく見直すきっかけになったのではないのでしょうか。

私自身、自粛期間が始まった当初は、全てが手探りで不安を感じる日々の中、自宅でごす子どもたちと、一人一人が家族の一員として責任を果たすことの大切さをしみじみと感じながら、家庭生活の在り方を見直すこととなった本当に貴重な経験でした。

日本の慣習では、女性、特に妻や母親が家庭の役割を多く負担することが当然であり、男性、特に夫や父親が日中家庭にいて家族と関わることを特別に感じてしまいます。この違和感が拭えない風潮が、各家庭が抱える問題(家庭内別居、離婚、不登校、ひきこもり等々)として顕著に表れてきたと感じます。これまでも、社会問題として取り上げられていたことではありますが、中々自分のこととして危機的に感じられず、対岸の火事のような感覚であった人が大半ではないでしょうか？

この機会に、身近な家族や、大切な人の心や幸せを本気で考えられることができれば、もっとよりよい社会に繋がっていくことでしょ

う。共働きであれば家事育児代行サービスを取り入れるなど、家族みんなが笑顔で安心して生活できるように工夫することにより、家庭が憩いの場となり多くの問題を解決する力に変わっていくことを願います。

(編集委員：T)



シリーズ

「結婚ってお嫁入りなの??」 第2回目



「女性が生きにくい…」

「男女共同参画がなかなか進まない…」

現在課題となっているこのような声は、もう何十年も前からあったものですが、解決できない原因の一つとして考えられるのが<結婚=嫁入り>という多くの人が持っている根強い意識にあるのではないのでしょうか。

このシリーズでは、昭和34年に結婚したある女性の例をあげながら、あるべき結婚の姿を追い求めたいと思います。

「走る嫁」

「床の間に飾ってお姫さんみたいに大事にしまっせ」嫁入りの時うちの親にいうとったけど、ようあんなこと言えたもんや。次の日からご飯やら田んぼ仕事に追い回された。嫁入り道具に持ってきた洗濯機も電気代がいるいうて二年ぐらい

使わせてもらえなかった。

井戸水や川の水で冬でも氷割りながら洗濯したもんや。そのころ隣のおばあさんとの会話聞いてしもたんやった。

「丈夫な、ええ手間^{※3}もろてでしたな」

「百姓してない家から来とるさかい、なかなか間に合いまへんわ」そういつて、おばあさんはまた言葉を足してでしたな。

「嫁は真綿で首絞めるようにじわじわ駄けなしようがおまへんな」それを聞いてほんまに血の気が引いていくような気がしましたで。

けれどその時、なにくそ負けへん、そう思いましてん。それから私も強くなりましたで。

あ、そうそう。いつ子さんは、米を自転車に積んで走ったことを思い出してふっと笑ってしまいました。

※3 働き手

次号へ続く。(編集委員：K)

なんて呼ぶ?男女の呼び方、夫婦の呼び方から男女平等について考える

新型コロナウイルスの感染拡大防止による緊急事態宣言が解除され、長い休みだった学校が少しずつ再開しました。昨年度小学校を卒業したわが子もようやく中学生です。

中学生になって最初に届いたプリントを見ると、男子生徒の名前には「君」女子生徒の名前には「さん」と呼称が違っていました。6年間通っていた小学校では男子児童も女子児童も同じ「さん」で呼ばれていたもので、「なぜ?」と、子どもが違和感を覚えている様子でした。

男子と女子で区別することについて、子どもたちはすでに「何か違う」と感じているのに対して、教育現場がそれについていけないように思います。

三木市内では今年度から全ての中学校が男女別名簿から混合名簿になったことで、コロナウイルス感染予防のための分散登校も男女関係なくグループ分けされた学校もありました。これについて子どもたちが「自分たちは男女ではなく一人の人間として見られているんだ」と感じたという声も聞いています。これからは性別で区別される

のではなく、一人一人が人として尊重される男女平等社会にしていきたいものです。

男女の呼び方と言えば、夫婦の呼び方もいろんな呼び方があります。パートナーの事を呼ぶ際、夫の事を「主人」「旦那」と言ったり、妻の事を「嫁さん」「家内」「奥さん」と言ったりしていませんか? 「主人」「旦那」という呼び方は主従関係を表す呼び方であり、「嫁さん」「家内」「奥さん」という呼び方は「女性は家にいるもの」という固定的な役割を表す呼び方です。正しくは「夫(男性の配偶者という意味)」「妻(女性の配偶者という意味)」が一般的な呼び方になります。または男女で区別することなく「パートナー」や「連れ合い」と呼ぶ場合もあります。呼び方から夫婦の対等な関係を意識してみるのも良いですね。

自分のパートナー以外の配偶者も「ご主人」や「奥さん」だと役割を固定する呼び方になります。日本でも海外のように男女や役割ではなく個人が尊重され、名前で呼ぶことが自然になると良いですね。(編集委員:M)



・今後の男女共同参画センター主催の講座・

テーマ	講師	日時	会場
とも 男女に学ぼう防災	斉藤 容子さん (関西学院大学災害復興制度研究所 主任研究員・准教授)	7月22日(水) 10:00~11:30	三木南交流センター
人間関係でストレスをためていませんか?	横山 由紀子さん (コミュニケーションサポーター)	8月19日(水) 13:30~15:00	山田錦の館
女らしくなく 男らしくなく 自分らしく	露の団姫さん (落語家・僧侶)	9月6日(日) 10:00~11:30	教育センター
落語界から仏門へ 56歳からの新天地	てんご堂雅楽さん (噺家・僧侶)	9月8日(火) 10:00~11:30	細川町公民館
工夫の巻き寿司で町おこし ~女性が輝き地域も輝く~	藤原 たか子さん (マイスター工房八千代施設長)	9月17日(木) 13:30 ~15:00	志染町公民館
笑いあえる喜びを感じましょう!	てんご堂雅楽さん (噺家・僧侶)	10月9日(金) 10:00~11:30	自由が丘公民館

セミナーは事前申込が必要です

三木市男女共同参画センター

愛称 “こらぼーよ”

三木市福井 1933-12

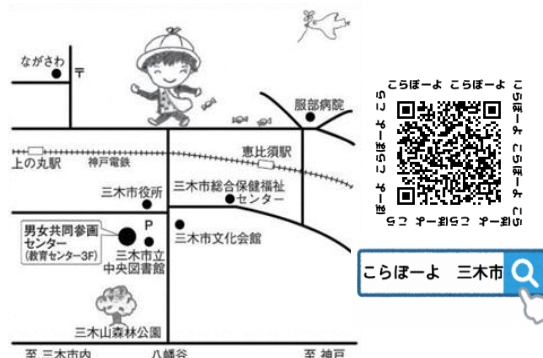
三木市立教育センター 3階

TEL&FAX: 0794-89-2331

開館日時: 月曜~金曜 9時~17時

(※祝日を除く)

企画・編集: 情報誌“こらぼーよ”編集グループ
発行: 三木市男女共同参画センター



◇編集後記◇

記事の中にもありますが、今年度から三木市内のすべての小・中・特別支援学校で男女混合名簿が使用されることになりました。これにより「男が前、女が後」という無意識の性差別意識の排除につながると同時に、自分の性別に悩む生徒の精神的な負担も少し軽くなったのではないのでしょうか?

三木市が男女共同参画社会の実現に一步近づいたことを大変うれしく思います。

(編集委員:M)